

めぐりつと紫波

[Vol.54] 令和2年8月26日

発行者 NPO法人紫波みらい研究所

TEL019-671-2244 FAX019-671-2243

E-mail miraiken@shiwa-mirai.com

7月1日から全国でプラスチック製買い物袋（通称レジ袋）の有料化が始まりました。これは、今まで何気なくもらっていたレジ袋を有料化することで、それが本当に必要かを考え、私たちのライフスタイルを見直すきっかけとすることを目的としています。この取り組みで期待できることを確認してみます。

レジ袋有料化で期待できること

レジ袋
いりません



●2050年、魚よりも

プラスチックが多い海に

現在、毎年800万トンものプラスチックごみが海洋へ流出し、生物や環境へ影響を与えています。レジ袋も含めたポリ袋は海洋プラスチックごみの0.3%と言われていたのですが、これはあくまで「漂着ごみ」の中での割合であり、「漂流ごみ」の中では6%を占めると言われます。また、海洋研究開発機構の調査によれば、水深1万メートルの海底でもポリ袋が発見されています。

プラスチックの大きな特徴の一つは、自然界ではなかなか分解されないことです。そのため海洋プラスチックは溜まっていく一方で、このままのペースで流出が続けば、2050年には海洋プラスチックは海の魚の総重量を超える見込みです。

●私たちができること

プラスチックごみはレジ袋だけではなく、レジ袋だけが悪影響を及ぼしているわけでもありません。しかし、現時点でも相当のレジ袋が海に流出していることがわかっているので減らすことが大切です。では、レジ袋を有料化するだけで海洋への影響を含めたプラスチックごみの問題は解決できるのでしょうか。

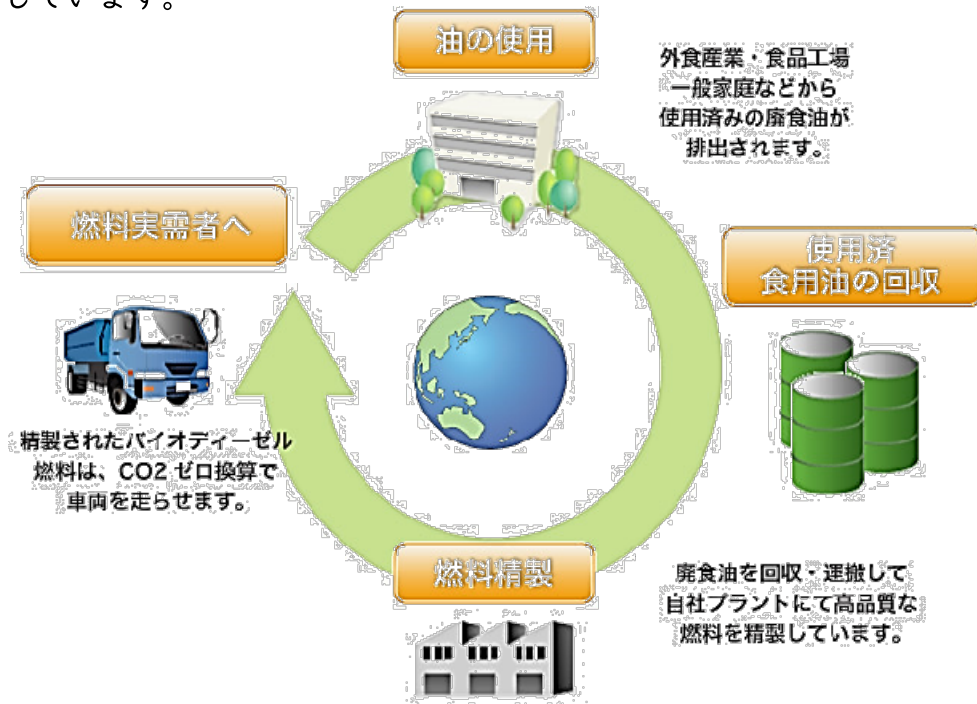
レジ袋有料化はまだ始まったばかりで、プラスチックごみの減量にどれほどの効果があるかは今後の結果を待たなければなりません。解決できる・できないではなく『解決しないといけない問題』であることは確かです。

今回の有料化は一般市民の方々が、プラスチックごみに関心を持ってもらう機会になっていると思います。そして、レジ袋の使用量を減らすことでごみの量が減ることを期待し、私たちができることとして取り組んでいきましょう。

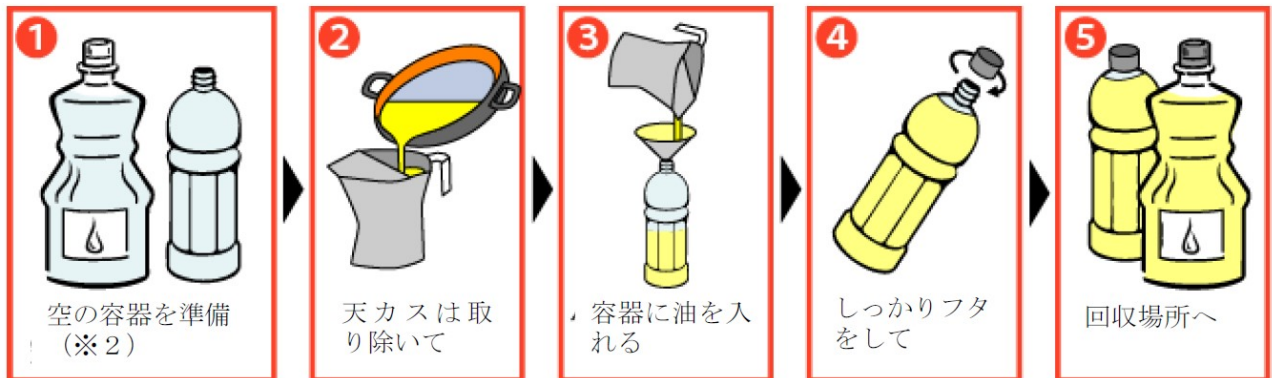


廃食用油が **BDF** (バイオディーゼル燃料) になる！！

紫波町では、家庭で発生した使用済みの食用油を回収し、「BDF (バイオ・ディーゼル・フューエル)」という軽油の代替燃料を製造し、トラック、乗用車、重機等に利用しています。



●使用済み食用油の出し方●



(※2) 食用油の入っていたプラスチックボトルが望ましいですが、洗剤を使わずに良く洗った 500ml のペットボトル (スポーツドリンク以外) でも回収可能です。

【廃食用油回収 BOX 設置箇所】

中央公民館・NPO 法人紫波みらい研究所・古館産直センターグリーンハウス・水分公民館・吉水公民館・片寄こどもの家・産直めぐり志和・志和公民館・赤石公民館・彦部公民館・佐比内公民館・赤沢公民館・長岡公民館

紫波環境(株)では各家庭への訪問回収もおこなっています。訪問回収については、紫波環境(株) (TEL019-672-2656) に直接お問い合わせください。

めぐりっと紫波は、紫波町産業部環境課の委託で発行しています。